

ロザリオの聖母の祝日 2023



親愛なる姉妹の皆さん

10月に入ると、ロザリオの聖母の祭日が思い浮かんできます。ロザリオの聖母の名をもつ修道会の起源から誕生し、聖母のご保護のもとで修道会として成長している私たちにとって、この祭日はとても大切なものです。

今日、私たちはさまざまな問題に直面する社会の中で生活しています。毎日、マスクやソーシャルネットワークで目にするのは、戦争、気候変動、貧困など、現代社会が抱える深刻な問題に関連する様々なニュースや出来事ばかりで、私たちの心は、時に落ち込みます。そこで、ロザリオの聖母に捧げられたこの祭日が創設されるきっかけとなった重要な歴史的出来事、1571年10月7日のレパントの戦いについて振り返ってみたいと思います。

歴史上最後の海戦が地中海で繰り広げられていた頃、ローマには何千人もの信徒がいて、教皇ピオ5世と一緒に教皇が、同伴していたロザリオを唱えていたという話があります。戦いは早朝から日暮れまで続き、翌朝、教皇は広場に集まったすべての人々に「聖母がキリスト教徒に勝利を与えた」という嬉しい知らせを告げました。この勝利の記念日に、ピオ5世は「勝利の聖母」という典礼を設け、後に後継者のグレゴリウス13世は、この祭日の名称を「ロザリオの聖母」に改めました。

ロザリオの聖母の働きによる「勝利」は、この戦いだけではありません。ロザリオの聖母のご保護を受けて勝利を収めた戦いは他にもあります。なぜなら、現実には、いつの時代にも、連帯、正義、奉仕の心、愛の世界とともに、暴力、抑圧、嘘、利己主義の世界も共存するからです。聖母は、母親に子供を見捨てることがないように、私たちが神に立ち返り、神の助けを確かなものとするための方法を与えてくださいました。より混乱した時代にあっても、ロザリオの祈りを通しての聖母の現存は、すべてのことにおいて、神のご計画が成就されるよう、絶えず信じながら、望み続け、希望をもって、戦い続ける力の源となってきました。

マリアもまた、自分の身に苦しみを体験したことを心に留めておくといいでしょう。自分の息子である主が、飼葉桶の中で、それどころか揺りかごやふさわしい衣類も与えられずに誕生したのだから、母親にとって、わが子がみじめな目に遭うこと以上に辛いことがあるのでしょうか。さらに、十字架にかけられた息子を見て、彼女は心底苦しみました。しかし、彼女は気を落とさず、不平も言いませんでした。現実をありのままに受け止め、その意味を理解するために神の視点からそれらのことを思い巡らしていました。

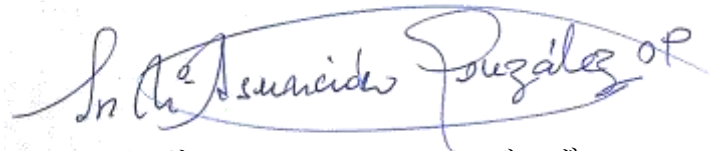
マリアは、私たちが人生において耐えなければならない困難や苦しみ、そしてこの世が経験している試練をよくご存知です。だからこそ、彼女のみ手に委ねるならば、力と勇気をもって私たちを支えることができるでしょう。ロザリオを祈ることは、聖母の確固たる信仰を観想することであり、祈るたびに私たちの信仰、召命、そして使命を確認させてくれます。それは、私たちが黙想するすべての神秘の中に現されている神の愛の偉大さを私たちに理解させるからです。マリアは、信じることに意義があることを私たちに示し、祈ることに意味のあることを保証してくださいました。

レパントの海戦のとき、何千人ものキリスト者が教皇とともにロザリオを唱えました。また、共同体、家族、そして信徒たちのグループで祈ることが、この尊い祈りに力を与えると私は信じています。その信心を広める価値があります。

ロザリオの聖母に、この世の旅路において私たちを支え、私たちの信仰を福音宣教に反映させることができるよう願ってまいりましょう。

ロザリオの聖母の祭日おめでとうございます。

姉妹的抱擁と祈りを添えて、

A handwritten signature in blue ink that reads "Srta. Asunción González O.P." The signature is written in a cursive style with a large, sweeping flourish under the name.

総長 ソール マリア アスンシオン ゴンザレス, O.P.